

眼で見る県政

本県 人口増減について

昭和45年(対40年増減)

昭和50年(対45年増減)



○ 人口減少市町村 92市町村
 ◎ 人口増加市町村 6市町村

○ 人口減少市町村 78市町村
 ◎ 人口増加市町村 20市町村
 (但し、増減0の泗水町を含む)
 (注) 泗水町の増減0は増加として色分けした。

昭和55年(対50年増減)



○ 人口減少市町村 50市町村
 ◎ 人口増加市町村 48市町村 (但し、増減0の上江町を含む)
 (注) 便宜上、55年10月1日現在の市町村数98で統一して色分けした。



11.20 — 熊本市東町に特設展示場を設け、県内の工業に対する県民の認識を深めてもらうとともに、工業技術力の向上と受注の促進並びに雇用の確保を図ろうと、初の「くまもとの工業製品展」が24日までの5日間開催された。



11.21 — 第6回県ふるさと顕彰式が知事応接室で行われ、尺八の山内良雄さんら6人、9団体に顕彰状と奨励金を贈った。県ふるさと顕彰は新しいふるさとづくりの一環として地域の連帯感を高めるため、50年から始められたもの。



11.27 — 閉ざされがちな身障者への雇用機会を増やすため、企業と身障者本人が直接話し合う“集団面接会”が、熊本市大江の同市福祉センター「希望荘」で開かれ、38企業と48人が参加した。



11.28 — 第4回米まつりが熊本市のサンロード新市街で始まった。米の消費拡大を図るのがねらいで30日まで多彩な催しが繰り返された。



10.10 — “キープ・くまもと・ビューティフル”を合言葉に観光くまもとフェスティバルが12日までの3日間、熊本城二の丸広場を中心に開かれ、ミスフェスティバル女王選出大会、全九州・四国太鼓競演会等の多彩な催しが繰り返された。



10.24 — 県赤十字血液センターに新しい献血車が配備されることになり、県庁プロムナードで命名式が行われ、「ふれあい号」と名付けられた。



11.2 — 昔からふるさとに伝わる遊びを子供たちに親しんでもらおうと、「熊本のあそび」ちびっこ大会が、熊本市の自衛隊健康センターとん地で県下の保育園児約2,000人が参加して開かれた。



11.11 — 元カナダ国大蔵次官及び原子力公社総裁で現ヴィクトリア大学教授トーマス・K・シヨヤマ氏(父 熊本県出身)が来熊し、知事表敬訪問のあと、河内町で近代農業を視察した。

県政トピックス ★ 県政トピックス ★ 県政トピックス